

講座名:『世代を超えてつながる居場所づくりを考えよう』

講 師:濱田昌実 丸山あかね 佐藤愛(看護学部 看護学科)

開 講: 9 月 30 日(1-2 限)、10 月 14 日、10 月 21 日

日本では、世界でも未曾有の少子高齢化社会に突入し、公的サービスのみではなく、見守りや地域交流など人間関係のネットワークを構築し、互いに支えあう仕組みづくりが喫緊の課題です。しかし、人口減少に加え、生活様式の多様化、核家族化などが影響し、地域の衰退は著しく、隣近所の関係は希薄化している現状があります。様々な先行研究において、多世代が集まることができる地域の居場所の存在は、そこへ来る人の楽しみ、生きがいとなり、身体的・心理的健康により良い影響を与えることが明らかになっています。

本講座では、受講生と看護学部学生とともに、「住み慣れた地域で世代を超えてつながり、生き生き自分らしく暮らす」ために、今からできることを考えていきましたので、ご報告いたします。

【9 月 30 日(1-2 限)】

1-2 回目は、福井市で労働者協同組合「りたねっと」を立ち上げ、精力的に地域活動を展開されている下島 礼子先生にお越しいただきました。福井での「りたねっと」立上げの経緯と地域活動の実際、相手・自分の強みを知るための傾聴・共感スキルについての講義を受け、傾聴・共感のロールプレイを行いました。受講者の皆様、1-2 年生のゼミ生 7 名、2 年生 1 名、養護教諭課程の 4 年生 4 名とともに、「行為を純粋に楽しむ「利他」の精神を基本にし、自己犠牲からの行為ではなく相手の喜びが自分の喜びとなる」ことが地域活動を継続して続けるために重要であることを学びました。さらに、「支援する人」「支援される人」という区別はせず、日常の出会いに感謝しながら一人ひとりの輝きを見出し、地域の力としてつないでいくことが、今後人口減少が加速する日本では重要であることを学びました。傾聴のスキルについては、学生、教員、受講生でペアになり、傾聴・共感のロールプレイの実践と、自分の大切にしている価値観を発見する「エンゲージメントカード」を使ったゲームを行いました。ロールプレイとゲームから、傾聴や共感のコツを体感するとともに、自己発見、自己開示、他者受容につながる機会となりました。



【10月14日】

3回目は、「地域共生社会」の実現を目指して」をテーマに、受講生とゼミ生7名とともに、住み慣れた地域で、「世代を超えてつながり、生き生き自分らしく暮らす」ために、今からできることを一緒に考えていきました。はじめに、自分の住む地域の好きなおとろや地域への思いをグループで話し合い発表しました。その後、植草学園大学 野澤和弘先生の「地域で共に生きるとは」のビデオレターの視聴、事例を用いて、地域活動に関する心の葛藤について、学生と受講者間でグループワークを行い、それぞれ発表しました。最後に、日常生活や今までの経験で事例と共通する場面を考えたうえで、地域で共に生きるために、少し工夫できることを発表し、「私が明日から踏み出す1歩」を宣言していただきました。受講生と学生は笑顔で交流しながら地域で共に生きることにについて、世代を超えて語り合うことができました。



【10月21日】

最終回は、世代を超えてつながる居場所づくりの実現を目指し、「こんな居場所があったら行ってみたい！」を受講者と学生でグループに分かれて話し合いました。世代を超えて意見を出し合いながら、地域の資源を生かした、「行ってみたいくなる」居場所のアイデアを皆で共有することができました。加えて、前回宣言した、「私が明日から踏み出す1歩」を実践してみて感じる気持ちの変化と周囲の変化について話し合いました。また、前回での話し合いをもとに、受講者が感じる地域活動への思いをゼミ生がまとめ、発表しました。さらに、保健師による地区組織活動への支援の実際と社会的処方および秩父市の「社会的処方とリンクワーカーづくり」の取り組みについて講義を通して学び、地域で世代を超えてつながる意味、つなげる意義について考えを深めました。

4回の講座でしたが、世代を超えて交流し、地域でともに生きるためにできることを考える中で、多世代での交流の楽しみや地域での役割を再認識されたことが伺えました。さらに、地域で生き生き生活するために、居場所（人が集うこと）はその“心臓部”であることを実感されたと感じております。今回の講座が、今より少しだけ、「地域事」を「自分事」として捉え、地域で多世代ともに活動する一歩を踏み出すきっかけになることを願っております。



【お問合せ】

城西国際大学 社会連携課

Mail: clics-jim@jiu.ac.jp

TEL: 0475-55-7685